

# 東っ子

日本一  
明るい  
東小学校  
11月号

## 子離れ

最近、子離れのできない親が増えてきているそうです。昔は子どもが多いのがあたりまえでした。最近では、少子化が進み、子どもは一人、二人が当たり前です。子どもが少ないと親の目が行き届きにくく、親が子どもに手をかける時間が増えてきました。

それはとても良いことですが、子どもに期待するあまり、子離れができなくなってしまうそうです。子育ては、「子どもが自立するために、親の務め」です。から、子どもの自我が芽生え、だんだん手がかからなくなってきたら、親もだんだん手を引いていくのです。それが自然の摂理です。この摂理に逆らっている、子どもの自立の妨げとなり、やがて大きな代償を払うという結果になりかねません。子どもは失敗をし、挫折を繰り返しながら成長し、一人前の大人になります。だからこそ、幼児期・少年期等、子どもの成長に合った親の対応が大切になるのではないのでしょうか。

## 東小学校歴史絵巻「星を観る会」

創立六十周年にちなんで、学校の歴史を綴った「学校沿革史」をひもといてみました。すると、昭和六十年四月十五日東小にプラネタリウム室が完成し、その日に点灯式が行われたと記録がありました。



記録からみても、プラネタリウムが活用され、今年度で三十三年度が経過しようとしていることになります。それだけに「星を観る会」は、東小学校の誇るべき『歴史絵巻』といってもいいのかもしれない。今年度は、創立六十周年という特別な年もあり、特別ゲストとして甲府南高校の天文部にご来校いただき、星に関する様々なプレゼンテーションを観る会を盛り上げていただきました。プラネタリウムの上映に

おいても、先生方が夏休み中から準備をし、星座にまつわる様々な話を織り込みながら、春夏秋冬の星空をきれいに映し出しました。きつと、各季節の星々について、家族みんなで楽しく学ぶことができたことと誇っています。



今年も盛況をほくし、延べで五百人を超える方に参加いただきました。盛大かつ無事に「星を観る会」を終了できたことも、ひとえに、PTA研修部・本会・とうふの会の皆様のおかげです。心より感謝申し上げます。



## 六十周年記念 日本一の秋祭り集会

右横のタイトルは、私のつけたものではありません。今年度の児童会役員が発案したものです。

子どもたち自身が六十周年を意識し、たてわり班二班ごとに工夫した出店を盛り上げた。異年齢のたてわりで行う活動により、上級生は思いやりと責任感や、下級生は協力性と目上の者を敬うことを養うことにつながると考えています。



そして、それは七十周年、八十周年へと引き継がれていくことで、東小学校の伝統と歴史づくりとなるはず。午後は、六十周年企画パレードとして、スポーツの秋にふさわしい体育関係者の講演を聞きました。講演者は、甲府市開府五百年事業課の紹介で「プロトレイランナー 石川弘樹」さんでした。北米を中心に世界中のロードを走ることを通して、スポーツの魅力や、実力のあるよいお話を聞くことができました。



## 自己ベストを尽くせ 「陸上記録会」

甲府市内の小学校二十七日(火)に緑が丘陸上競技場に集まりました。昨年同様雨で延期になってしまいましたが、東小の六年生は自己ベストを尽くし、記録の更新を目指してがんばりました。



一生懸命に走り・跳び・投げる姿、がんばる友だちに声援や拍手を送る姿は、見ている私たち教員の心を揺さぶるものがありました。きつと、六年生にとっては、忘れられない一日になったことでしょう。東小学校では、陸上記録会前日に、五年生が企画・運営を行い、六年生への激励を込めて、壮行会ともいえる学校集会を全校で実施しています。五年生代表の掛け声に合わせて、全校みんなで心を一つにして、エールを送りました。東小の絆と意気込みを感じる会でした。



平成30年11月26日（月）甲府市立東小学校だより